Campo Maior カンポ・マイオール

について

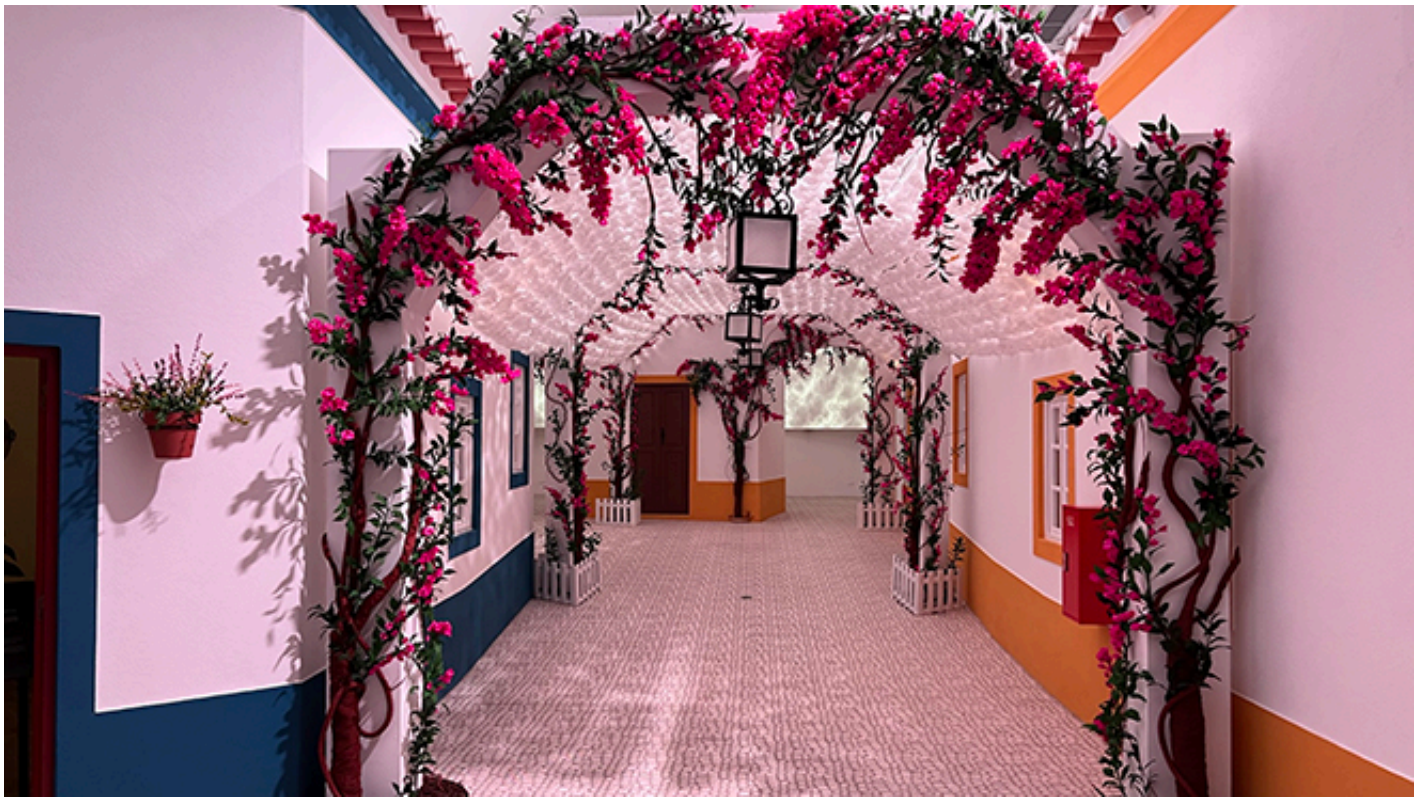
写真: CM Campo Maior

Campo Maior カンポ・マイオール

スペイン国境近くのアレンテージョ地方に位置するカンポ・マイオールは、50キロメートル以上に渡って広がる広大な平原の真ん中にあり、ローマ人には「カンプス・マジョール」として知られた集落です。現在では、静かな通りと白塗りの家々が、温かく迎えてくれる住民たちの住む場所となっています。

地域社会が共通の目的を持って団結すると、「民衆の祭り、あるいは花の祭り」として知られる、この国で最もユニークな祭りの1つが実現します。実際、このイベントは、地域社会が団結して何千もの紙の花を作り、100を超える通りを想像力豊かに飾ることを決意したときにのみ開催されます。ユネスコはこの行事のユニークさを認め、人類の無形文化遺産に指定した。色彩と喜びにあふれた活気に満ちた光景で、何千人もの来場者を集めますが、決まった日付や定期的なスケジュールはありません（前回の開催は2015年でした）。その起源と歴史は、花の家（フェスタ・ド・ポヴォ解説センター）や、8月にカンポ・マイオールを訪れて「紙の庭」イベントを見学することで、「フェスタ・ド・ポヴォ」（民衆の祭り）の魅力を垣間見ることができます。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com



Casa das Flores © Câmara Municipal de Campo Maior [画像：花の家 ©カンポ・マイオール市庁舎]

カンポ・マイオールには、まだまだたくさんの見どころがあります。観光客は、ムーア人によって建てられた城から出発することができます。国境に近い戦略的な位置にあるため、この地域の重要な拠点となり、ポルトガル領土の防衛に重要な役割を果たしました。高い見晴らしの良い場所に位置し、町とその周囲の景色の素晴らしい景色を眺めることができます。観光客は、町の過去を形作った出来事や人物を生き生きと紹介するブルワーク要塞解説センターを訪れ、町の歴史をさらに深く探求することができます。

Castelo de Campo Maior © Câmara Municipal de Campo Maior [画像：カンポ・マイオール城 ©カンポ・マイオール市庁舎]

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

町の歴史は古いものの、歴史的中心部の建物のほとんどは18世紀以降に建てられたもので、1732年に要塞の弾薬庫で起きた壊滅的な爆発により、中世の町のほぼ3分の2が破壊されました。この悲劇的な事件の後、町は再建され、探索する価値のある素晴らしい建物もいくつか残っています。見どころとしては、聖母マリアを祀るマニエリスム様式の聖母教会（16〜17世紀）、18世紀の洗礼者聖ヨハネ教会、市内のさまざまな教会から集められた膨大なコレクションを収蔵する宗教美術館、ユニークな骨の礼拝堂などがあります。 また、カンポ・マイオール生まれで無原罪懐胎修道会の創始者であるポルトガル初の聖人に捧げられたサンタ・ベアトリス・ダ・シルヴァ家博物館も訪れる価値があります。

Campo Maior © Câmara Municipal de Campo Maior [画像：カンポ・マイオール ©カンポ・マイオール市庁舎]

イベリア半島最大の焙煎所内にあるコーヒー科学センターを訪れると、「密輸の時代」から現代に至るまで、この自治体におけるこの産業の歴史について知ることができます。ここではワインなどの他の地域産品も特に注目されており、建築家シザ・ヴィエイラが設計した素晴らしい建物であるアデガ・マヨールも訪れる価値があります。オリーブオイルもここで生産されており、オリーブの収穫から始まるオリーブオイル生産のさまざまな段階を展示する施設であるオリヴァ子爵宮殿プレス博物館で紹介されています。

カンポ・マイオールから約10kmのところにウゲラ村があります。この村の城は国境の要塞としての特徴を残しており、総督官邸や貯水池も訪れることができます。レジャーを楽しむなら、カンポ・マイオールから約5kmのところにあるカイア貯水池が最適です。ポルタレグレ地区最大のこの広大な水域は、さまざまなウォータースポーツを楽しんだり、素晴らしい景色を楽しみながらただリラックスしたりするのに最適な場所です。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com